

平成29年度水質事故発生状況

第1四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因者	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他		
							内容		
4	21	森戸川	関口川	小田原市	○				市民から小田原市環境保護課へ、「市内の事業場の東側にある水路で魚が死亡している」と連絡があった。市が現場を確認したところ、通報現場近くの水路で20～30mの範囲に約3cmのハヤが60～70匹死亡していた。市が現場で簡易分析を行ったところ、特に水質に異常はみられなかった。また、現場より上流を調査したが、魚の死亡等はなく、周辺に工場等もなかったため、原因は特定できなかった。その後、死亡魚の回収が完了し、周辺調査でも異常等が確認できないことから、本件は原因不明として収束とした。
4	22	一番川		三浦市	○				4月24日、市民から三浦市環境課へ「2日前に河川で魚が死亡していた」と通報があった。市が現地を確認したところ、通報箇所より下流にて2～3cm程度の死亡魚が数十匹点々と沈んでいたが、同種の小魚の生息も見られた。簡易分析の結果、水質に特に異常はなく、悪臭等の魚の死亡以外の異常は確認されなかった。市がさらに下流を調査したところ、死亡魚が点在していたが、生きている魚もあり、河口付近では異常は見られなかった。また、上流側では、事故の原因となるような痕跡は発見できなかった。現状として、通常の状態に回復していたことから、原因不明で収束とした。
5	1	金目川	大根川	秦野市	○				市民から秦野警察へ「大根川で魚が大量に死んでいる」と通報があった。秦野警察が現地にて、小魚4、5匹の死亡とコイの生息を確認した。事故発生翌日、秦野警察から連絡を受けた秦野市環境保全課が現地確認を行った。簡易水質検査では水質に異常はみられず、小魚やコイ等の水生生物の生息を確認した。また、市が現場付近を調査したが、魚死亡の原因につながるような事象は確認されなかった。河川に異常が確認されなかったことから、本件は原因不明で収束とした。
5	15	金目川	千須谷排水路	平塚市	○				市民から平塚市環境保全課へ「金目川の吾妻橋付近の水路で魚が死亡している」と通報があった。市が現地確認を行ったところ、大きさ5cm程度のアユが、数百匹程死亡していることを確認した。死亡魚は平塚土木事務所が回収した。市が水路で簡易水質検査を行ったが、有害物質は検出されず、水質に特に異常はなかった。また、市は現場周辺を調査したが、原因の特定には至らなかった。翌日、市が再度現場確認したところ、特に異常は確認されなかった。死亡魚の回収が終了し、河川の状態も異常が見られないことから、本件は原因不明として収束とした。
5	22	金目川	渋田川	平塚市	○				市民から平塚市環境保全課へ「渋田川の大正橋から小田原厚木道路までの間の水路（城所大排水路）でコイ10匹程度が死んでいる」と通報があった。市が現地確認を行ったところ、大正橋下流の小田原厚木道路から上流30mまでの間に12～13匹のコイと1匹の小魚（10cm程度）の死亡を確認し、回収作業を行った。市が現場付近で簡易水質検査を行ったが、特に異常はみられなかった。また、現場付近では、生きているコイも確認された。翌日、市が現地確認を行ったが、新たな死亡魚は確認されなかった。死亡魚の回収が完了し、新たな死亡魚も確認できなくなったことから、本件原因不明として収束とした。
6	23	金目川	渋田川	伊勢原市	○				市民から伊勢原市環境対策課へ「東海大学伊勢原キャンパス南にある西部用水路の西側の水路の水が濁っており、アユやハヤなどの魚の死骸が流れてきている」と通報があった。市が現場にて数匹の小魚の死亡を確認し、回収を行った。死亡魚の種類は全てアユと思われ、上流部を含めた回収量は94匹であった。pHについて簡易測定を行った結果、中性であった。また、市が現場上流を調査したが、原因となる事象は確認できなかった。新たな死亡魚は認められないため、本件は収束とした。

第2四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因者	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他		
							内容		
7	28	酒匂川	要定川	南足柄市	○			不明	<p>県西地域県政総合センター防災課から同センター環境保全課（県西C）へ「南足柄市内の物流倉庫で火災が発生した」と連絡があった。通報内容から有害物質等が公共用水域へ流出する可能性は少ないと判断した。その後、飯泉取水管理事務所から県西Cに「現場で消火剤が使用されている」との連絡が入ったため、県西Cから南足柄市環境課に現場確認を依頼した。市が現地確認を行ったところ、公共用水域への消火剤等の流出は確認されなかった。なお、エレベーターピットや非常階段等に溜まった消火剤や油を含む水は、翌日以降、産業廃棄物として処理することとした。</p> <p>翌日、市が現場を確認したところ、火災発生場所直近の水路でどじょう約100匹が死亡していたため、事業者に対して、死亡魚の回収を指示した。飯泉取水管理事務所が要定川の水質を確認したが、異常は見られず、火災現場からの水の流出は確認できなかったため、魚死亡原因の特定には至らなかった。その後、公共用水域の異常は確認されず、これ以上の影響はないと判断したため、本件収束とした。</p>
8	23	葛川		大磯町	○			不明	<p>町民から警察へ「大磯町の葛川でコイが50匹程死亡している」と通報があった。警察、大磯町環境課、湘南地域県政総合センター環境保全課（湘南C）が現場確認を行ったところ、コイの他にもボラやアユと思われる魚やエビなどが死亡していることを確認した。町が現場の上下流を確認したところ、死亡魚には酸欠のような症状は見られなかった。湘南Cが現場付近の橋で簡易分析を行った結果、残留塩素が検出されたため、付近の事業場に聞き取りを行ったが、普段と異なる作業は行っていないとのことで原因の特定には至らなかった。翌日、湘南Cが現地確認を行って新たに死亡魚を確認したため、町や平塚土木が960匹を回収した。その後、魚の回収が完了し、新たな魚死亡も認められないことから本件は収束とした。</p>
9	29	酒匂川	尺里川	山北町	○			不明	<p>酒匂川漁協から県西地域県政総合センター環境保全課（県西C）へ「県民から山北高校付近の尺里川で魚が死亡しているとの連絡があり、担当者が現場に向かっている」との連絡があった。漁協は死亡していた約30～40匹の鮎の回収作業を行った。一方、連絡を受けて、現場確認を行った山北町環境課は、滝沢橋付近で滝沢川と合流する用水路から薄茶色の汚水の流入を確認した。しかし、当該用水路は山北町の中心部を流れる暗渠であったため、遡及は困難であり、原因の特定には至らなかった。広域水道企業団も現場確認を行い、酒匂川本流への影響はないと判断した。後日、県西Cから町に対して、周辺住民に事故の情報提供と汚水を流さないように注意喚起することを依頼した。さらなる汚水の流出がなく、今後の河川への影響もないと判断できるため、本件は原因不明として収束とした。</p>

第3四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因者	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他		
							内容		
10	6	金目川	渋田川	平塚市	○			不明	<p>平塚警察及び住民から平塚市環境保全課へ「平塚市豊田本郷の水路（開渠部）で魚（フナ）が死亡している」と連絡があった。市環境保全課が現場確認を行ったところ、約20匹のフナが死亡していた。腐敗している個体もあるため死亡してからだいぶ時間が経過していることが推察された。市環境保全課が簡易分析を行ったところ、DO：約6mg/L、pH：7.0～7.5であった。また、市環境保全課が現場より上流を確認したところ、死亡魚は確認されなかった。市下水道整備課が現場にて死亡魚の回収作業を実施し、現状の水質に問題がないと思われることから、本件原因不明として収束とした。</p>

第4四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因者	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他		
							内容		
1	30	金目川	渋田川	伊勢原市	○				住民から伊勢原市へ「渋田川でコイが死んでいる」との通報があった。同市環境対策課及び湘南地域県政総合センター(湘南C)が現場確認を行ったところ、道灌橋から菖蒲田橋の間でコイ10匹程度の死亡が確認された。死亡したコイは大きな外傷等は見られず、簡易分析の結果からも水質の異常は確認されなかった。県平塚土木事務所及び湘南Cが死亡魚計90匹を回収した。また、県内水面試験場が死亡魚の検査を行ったが、魚病細菌や寄生虫は検出されず、異常は確認されなかった。その後、魚死亡が確認されなくなったことから、本件は原因不明で収束とした。
3	26	相模湾	庄司川北側水路	三浦市	○				市民から三浦市に、初声町付近で稚魚100~1000匹が死亡しているとの通報があった。市環境課と横須賀三浦地域県政総合センター(横三C)環境課が現地確認を行ったところ、ボラの稚魚と思われる死亡魚を確認した。また数匹程度生存魚も確認された。市環境課及び横三C環境課が簡易分析を行ったが、特に問題となる数値は検出されなかった。後日、市環境課が現場を確認したところ、新たな死亡魚は確認されず、ボラの稚魚が多数生存していることを確認した。以上により、魚の生存が確認され、環境への影響が確認されなくなったため、収束とした。
3	28	一番川		三浦市	○				市民から警察に、一番川で魚が大量に死亡しているとの通報があり三浦市に連絡した。三浦市環境課及び横須賀三浦地域県政総合センター環境課が現地を確認したところ、ボラとウナギの稚魚の死亡(百数十匹程度)を確認した。同地点では、生存魚も確認でき、エラの異常や異常行動も確認できなかった。また、水質の簡易分析結果も異常値は確認できなかった。後日市環境課が現場において生存魚も確認した。また、市土木課が死亡魚を回収した。以上により、死亡魚を回収し、河川の現状回復が認められたことから、収束とした。